

登録コード:MH307200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	理学療法評価法Ⅰ【20M以降】 Assessment and Evaluation in Physical Therapy Ⅰ		
担当教員	小宅 一彰 西澤 公美・北川 孝		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/2年 前期 火曜・1時限 火曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	検査・測定データを収集する技能を習得するとともに各種病態と検査・測定結果の関係を理解することで、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた臨床判断の進め方について理解することができる。
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	形態、筋力、関節可動域、バイタルサイン、筋緊張、運動機能（運動麻痺・協調性）、バランス能力、感覚（痛みを含む）にかかわる病態の理解と検査・測定技術を習得し、理学療法評価において活用することができる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身に付いている。	⇔	社会で派生する多様な健康問題に対して、理学療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探求心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な理学療法介入の実践に向けて生涯をかけて取り組む力が身に付いている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	複数の教員によるオムニバス形式で、形態、筋力、関節可動域、バイタルサイン、筋緊張、運動機能（運動麻痺・協調性）、バランス能力、感覚（痛みを含む）にかかわる検査・測定技能を習得するために、講義と実技練習を行います。実技練習においては、ペア学習により建設的な意見交換をすることで、技能の理解と精度を高めてもらいます。 本授業は、1年次に学んだ「系統解剖学」、「生理学」、「病理病態学」、「運動学」、「機能触診解剖学」の発展科目に位置付けられ、2年次前期の「理学療法評価法Ⅱ」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、2年次後期に学ぶ「理学療法評価法実習」および3年次前期で学ぶ各種疾患別理学療法の前提科目となります。 本授業は、担当教員の臨床現場における理学療法士としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回（4月14日） オリエンテーション（小宅）/形態測定（北川） 第2回（4月21日） 関節可動域検査①（中村） 第3回（4月28日） 関節可動域検査②（中村） 第4回（5月12日） 徒手筋力検査法①（北川） 第5回（5月19日） 徒手筋力検査法②（北川） 第6回（5月26日） 徒手筋力検査法③（北川） 第7回（6月2日） 徒手筋力検査法④（北川） 第8回（6月9日） 【実技試験①：第1回～第7回分】（北川・中村） 第9回（6月16日） バイタルサイン（北川）/運動発達検査（西澤） 第10回（6月23日） 協調性検査/バランステスト（北川） 第11回（6月30日） 筋トームス（緊張）検査/深部腱反射・病的反射（北川） 第12回（7月7日） 【実技試験②：第9回～第11回分】（北川・岡野） 第13回（7月14日） 感覚検査/痛みの評価（岡野） 第14回（7月21日） 片麻痺機能検査（小宅） 【授業アンケートの実施】 第15回（7月28日） 【実技試験③：第13回～第14回分】（小宅・岡野） 第16回（8月4日） 【期末試験】（小宅）		
授業の進め方	複数の教員によるオムニバス形式で、関節可動域、筋力、バイタルサイン、運動発達、運動機能（運動麻痺・協調性）、バランス能力、筋トームス（緊張）、感覚（痛みを含む）にかかわる検査・測定技能を習得するために、講義と実技練習を行います。実技練習においては、ペア学習により建設的な意見交換をすることで、技能の理解と精度を高めてもらいます。毎回の授業の最後には、練習相手から受けたフィードバックをもとに自身の課題について自己分析をし、次の授業に向けた準備をします。		
テキスト、教材、参考書	教科書 1. 理学療法評価学 第6版補訂版（金原出版） 2. 新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書） 評価器具を購入していただきます（約3000円） ＊角度計，メジャー，ストップウォッチ		
成績評価の方法	実技練習リフレクションシートの記載および提出、3回の実技試験(6月9日、7月7日、7月28日)、期末試験(8月4日)の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。		

成績評価の方法	総合的評価の配分は、実技練習リフレクションシート20%、実技試験(3回)60%、期末試験20%とし、実技試験(3回)の成績が60%以上、且つ、総計の60%以上の得点を合格とします。実技練習リフレクションシートでは、練習の成果を振り返り、自身の知識や技能を高めようとする学習意欲を評価します。実技試験や期末試験では、評価にかかわる基礎的な知識や技能だけでなく、科学的根拠に基づいた臨床判断のための思考力や判断力を評価します。
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解けるあるいは基本的な実技が実施できれば「水準にある」、応用問題が解けるあるいは接遇にも配慮した実技ができれば「やや上にある」、やや難しい応用問題が解けるあるいは接遇・リスク管理に配慮した実技ができれば「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解けるあるいは接遇・リスク管理に配慮し精度を高めるために能動的に学習した工夫がみられる実技ができれば「卓越している」と評価します。 「卓越している」：秀 「かなり上にある」：優 「やや上にある」：良 「水準にある」：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】次回の授業で学習する内容について、最低限、教科書の該当範囲には目を通してください。すでに履修した内容や教科書に書かれている内容について、授業中に質問します。 【事後学習について】授業中に前回の授業で学習した内容を質問します。円滑に授業を進行するために、学習した内容は整理したうえで、次の授業に臨んでください。実技については、授業時間外に各自で練習時間を設けてください。検査スキルを向上させる最良の方法は、練習することです。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(4時間×15回)＋自主学習時間30時間(2時間×15回)＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	後期から始まる理学療法評価法実習では、実際に患者さんに対して、これらの評価をすることになります。相手が実際の臨床場面における患者さんであると想定して、真剣に口頭での説明や評価を実施することが、皆さんの臨床能力を高める上での重要なポイントとなります。触診する機会が多いことから、実習に適した軽装（ジャージ，Tシャツ）で授業に参加してください。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください） 保健学科南校舎4階 小宅研究室